

受け入れ マタイ10:40~42

私には四人の子供いますが、子供を育てながら、よく口にする言葉があります。「これをやったら、プレゼントをあげるよ」という言葉です。例えば、ご飯を残さずに食べたら、お菓子をあげるとか、宿題を済ませたら、一緒に遊んであげるとかというようなことです。そうすると、子供たちはお菓子を食べるために、または、父と一緒に遊ぶために頑張ります。ここでのプレゼントというものは、一種の報いですが、一般的な報いとは違うと思います。なぜなら、この報いの中には、子供たちのための父の愛がこめられているからです。だからこの報いは、オリンピックなどの大会で受ける報いとは違います。競争と努力に対して与えられる報いではなく、正しい成長のために与えられる報いだからです。

今日の福音書でイエスさまが言われる報いもこれと同じだと思います。ほとんどの報いはたいへんな努力を伴います。そして努力したとしても、みんながその報いを受けられるわけではありません。しかし、今日の福音書での報いは、報いを受けるための努力よりは、報いが与えられるということに焦点を当てています。必ず報いが受けられる。だから、キリストを受け入れなさい。これは、まるでお菓子が与えられるのだから、ご飯を食べなさいということと同じではないかと思います。それでは、イエスさまはなぜこのような言葉を弟子たちに言われたのでしょうか。すでにイエスさまを受け入れた弟子たちに、この言葉を口になさった理由は何でしょうか。私は、その理由は弟子たちの信仰が揺らぐことのないようにしてくださるためだと思います。

先週の福音書でイエスさまは、ご自分が地上に来たのは平和ではなく、剣をもたらすためだと言われました。そして、その剣によって家族は互いに敵となり、分裂するのです。しかし、イエスさまが剣をもたらす目的は、家族を分裂させることだけではないでしょう。分裂はただ過程に過ぎません。イエスさまは分裂という過程を通して、ユダヤ人の共同体の中に福音が入られるようになさるのです。福音を通した救い。これがイエスさまの分裂の目的でした。当時のユダヤ人たちの救いの観点は、今の私たちの観点とは違いました。私たちにとっての救いは、信仰による救いです。しかし、彼らにとっての救いは、信仰ではなく、血統でした。それで彼らは、血統を大事に思い、同じ血統ではない異邦人たちを無視しました。

このようなユダヤ人の血統のことは、過去から続いてきたことです。旧約聖書エズラ記、ネヘミヤ記を読むと、バビロン捕囚の後、ユダヤ人たちは、約70年ぶりに自分の土地に帰ってくるようになります。帰ってきたユダヤ人たちに指導者エズラは、ヤハウエ信仰を再び立てるという名目の下で、異邦人と結婚した民たちを強制的に離婚させます。そして、崩れた神殿を再建する過程の中で、北イスラエル人、つまり、サマリア人たちは、自分たちも神殿の再建に加わることを望みました。しかし、帰ってきたユダヤ人たちは、彼らの参加を拒否します。表面的には王（キュロス）の命令だったと言いましたが、私の個人的な考えでは、これも血統的な問題だったと思います。このような歴史的なことが重なって、イエスさまの時代にも血統が重視され、救いも選ばれたユダヤ人たち、すなわち、血統による救いがユダヤ人の間では、当然のことでした。イエスさまはこのような救いの観点を打ち破ろうとなさったのだと思います。選ばれたこと、血統が救いをもたらすのではなく、イエスさまを受け入れた人なら、誰でも救いを受けるのです。これこそが、イエスさまがこの地上に剣をもたらすことであり、分裂の目的でした。

イエスさまの時代の信徒、また福音書の時代の信徒たちは、ユダヤ人の迫害だけでなく、このような血統の考え方とも戦わなければなりません。人々にとって福音が血統より大事だということ、血統による救いはないということを伝えなければなりません。それだけでなく、自分たちさえもこのような血統

の考え方や戦わなければなりませんでした。彼らは私たちとは違って、ユダヤ人だったからです。彼らは血統と深い関連がある人々でした。だからイエスさまは、受け入れることについて言われます。ご自分を受け入れる人は、神様を受け入れることだと言われます。神様を受け入れたので、血統は要らなくなりましたということでしょう。そして、人々がイエスさまを受け入れたことによって、分裂が起こることもありえます。その分裂は、分裂だけで終わりません。分裂は必ず救いをもたらすものなので、弟子たちは人々に受け入れられます。40節の御言葉です。「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。」

この言葉は、イエスさまが弟子たちに勇気を与えてくださる言葉だと思います。信仰が揺らぐことのないように、弟子たちにも権威を与えてくださるのです。弟子たちを受け入れる人々は、神さまを受け入れることだと言われます。そして、旧約聖書の時代に起こったことを弟子たちに教えてください。41節の御言葉です。「預言者を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いを受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。」このように、弟子たちを受け入れる人も、必ずその報いを受けることになるということです。

この言葉は、福音によって救いを受け、信徒としての人生を生きている私たちにも深い関係があります。私たちにはジレンマのようなことが一つあります。福音を宣べ伝えるということについての責任感とそれに伴う負担の心です。いくつかの状況を考えると、福音を宣べ伝えることは、現在の方が過去より難しくはないと思います。ですが、福音を宣べ伝えることは、そんなに簡単だとは言えないでしょう。現在は過去のようには迫害を受けたり、信仰に命をかけたことはありませんが、私たちの文化は邪魔になるものと迷惑になるものに対して敏感です。ですから、私たちが宣べ伝える福音が、どうかすると、隣人にとって邪魔になったり、迷惑になるのではないかと心配になることも事実です。このような状況に置かれた私たちに、今日の福音書が伝える御言葉は、「報いがある」ということです。私たちが宣べ伝える福音は、邪魔や迷惑だけになるわけではないということです。イエスさまは私たちが宣べ伝える福音を通して、私たちの隣人に報いを与えてくださるということです。そして、私たちの隣人は、必ずその報いを受けるのです。邪魔と迷惑が福音の目的ではありません。報いが与えられることが福音の目的です。

また、イエスさまは、「わたしの弟子だという理由で、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ず報いを受ける(42節)」と言われます。冷たい水一杯というものは、当時のイスラエルで最も基本的なものでした。水一杯を飲ませることは、誰でもできることでした。こんなに簡単なことをしてくれる人にも、イエスさまは必ず報いが受けられると言われます。だから、信徒としての私たちは、福音を宣べ伝えることについて心配をしなくても大丈夫です。イエス様が彼らのために報いを与えてくださるからです。私たちは、ただ福音を宣べ伝えることにおいて、私たちの信仰が揺らぐことのないようにするだけで十分です。

今日の福音書は、イエスさまを受け入れた人々に与えられた御言葉です。私はまるでこの言葉が、イエスさまが私たちに「頑張れ」と言われるように感じられます。時代と文化、国と関係なく、福音を宣べ伝えることは簡単なことではないと思います。そして、福音を宣べ伝えることが、いつも良い反応を受けるわけでもありません。それにもかかわらず、私たちが福音を宣べ伝えるなら、私たちは、私たちの思いより多くの人々が福音を喜んで受け入れることを見ることができるとは思います。また、イエスさまが約束された報いが与えられることも見られるのです。だから心配しないでください。福音は福音として伝えてください。イエスさまがすべてのことを導いてくださいます。神さまの御言葉を受け入れる人に天の報いが与えられるように。そして、これを宣べ伝える私たちの信仰も揺らぐことのないように、主の御名によって祈ります。アーメン